教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10－8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 森戸卓也
編集人 福山香織
電話 050（3538）2346
1部15円 年定価360円
（組合員の購読料は組合費の中に含む）

2024/4・1
No.2090

・人権教育ひょうご春季学習会
・深江日教組青年部長が公務員連絡会「2024春闘期3．12中央集会」で決意表明！

県議会 第366回 2月定例会 予算特別委員会

3月、兵庫県議会予算特別委員会が開催され、小西ひろのり県議会議員が質問に立った。

小西議員は「県立大学の授業料等無償化」、「パートナーシップ制度」、「未配置問題」、「部活動の地域移行」など教育分野だけでなく、幅広い分野について8回に渡って質問をおこなった。その中から、県教委への質問を掲載する。

未配置問題について

○小西

この一年に限らず、感染症の影響と時期を同じくして顕在化した学校における、いわゆる教職員の未配置問題が深刻化している。特に小学校において顕著に現れており、担任がいないため、兵庫型学習システムの加配教員等が担任となったり、教頭が担任の代わりを担ったり、本来の少人数授業、教科担任による専門的な授業ができない状態が続いている。さらには産休育休の代替教員が見つからないため、ほかの教員が交替で授業を受け持ちながら日々繋いでいる状態である。教職員の未配置問題に関して、県教委としての、次年度以降の具体的な方策について所見を伺う。

○吉山人材確保対策官

正規雇用の確保にむけて、今年度は教員の未配置の状況もふまえ、合格者数の増員、および辞退者数や各市町の必要数をふまえた条件付き合格者の追加合格により、100人増員した。

次に、臨時講師の確保にむけて、臨時講師人材バンクの充実のため退職教員への講師登録への協力依頼のほか、ペーパーティーチャー等支援講座を昨年度から計4回実施し、参加者が280人、うち71人に講師登録をいただくなど、講師登録者の掘り起こしにとりくんでいるところである。

また、各市町が臨時講師の確保に早期着手できるよう、初任者の配置決定時期を前倒すとともに、産休育休代替教職員の安定的確保にむけた加配措置を拡充することとしている。

働き方改革について

○小西

今、現場で働く教職員は笑顔になっているのか。教職員が笑顔にならないと子どもたちも笑顔にはならない。一人ひとりの子どもたちとじっくりとむき合い、わかる授業、楽しい学校をつくるべき教職員が疲弊してしまっており、教職員が魅力ある職業となっていない。

モデル校への民間のコンサルタントの導入の成果を始め、これまでのとりくみの総括、また今後の勤務時間の適正化、また学校業務削減のにむけた具体的なとりくみについて所見を伺う。

○藤原教職員企画課長

スクール・サポート・スタッフの配置校数の増加など、学校業務の削減について、一定の成果は得られたというふうに考えているが、依然として長時間勤務の教員が多い状況にある。

モデル校の調査研究で得られた提言と、今年度拡充した「GPH100」の事例を体系的に整理し、学校現場におけるとりくみの方向性を示す学校業務改善に関するガイドラインを新年度中に策定したいと考えている。

部活動の地域移行について

○小西

中学校・高等学校においては、部活動指導も教職員の多忙化の大きな要因の一つとなっており、学校の働き方改革をふまえた部活動改革に加え、地域人材の協力も得て、子どもたちのスポーツ文化芸術活動の機会の確保のためにも、地域移行を早急にすすめていかなくてはならない。今後の部活動の地域移行にむけた具体的なとりくみについて、当局の所見を伺う。

○内藤体育保健課長

今後は、各市町の課題をふまえた円滑な地域移行を推進するため、新たに市町の代表やPTA地域スポーツ団体等の関係者が一堂に会した地域移行推進協議会を設置して、具体的なロードマップをふくむ地域移行推進計画を策定して市町に示すなど、合意形成をはかっていきたい。

学校問題のサポートチームの充実について

○小西

学校現場が抱えるあらゆる悩みやトラブルを解決していくためには、弁護士、精神科医、臨床心理士などの専門機関とより深く関わることが必要不可欠だと考える。今後のとりくみについて、具体的にどのように考えているのか伺う。

○村田教育次長

複雑化する学校を取り巻く課題に対し、多面的に支援をおこなうための体制として、昨年度から各教育事務所に学校問題サポートチームを設置している。加えて、今年度は学校への支援体制を強化するため、重大事態が発生した場合、必要に応じてスーパーバイザーを派遣できる体制も整えている。

引き続き、学校が問題を抱え込むことなく、関係機関と適切に連携して解決をはかることができるよう、市町や学校との連携を深め、相互的な支援に繋げていきたい。

○小西

教職員は様々な問題を自分自身が抱えざるをえない中で、辞めてしまったり、休みに入ってしまったりしてしまう。そして採用試験の受験者数も減ってしまうという状況になっている。今一度、社会を変えていかなくてはならないという非常に大きな課題にも繋がる。

教職員が本来の業務である授業づくりや、子どもとしっかりと接することができる関係づくりに専念できるような体制をともに構築していきたい。

日教組 第113回臨時大会

働き方改革や組織拡大・強化にむけて全国連帯でとりくもう！

3月14日、日本教育会館において、日教組第113回臨時大会が開催された。

冒頭、1月1日に発生した「能登半島地震」で犠牲になられた方々への哀悼の意を表し黙とうがおこなわれた。続いて被災単組を代表して石川高教組新明書記長から報告があり、「能登半島地震からの復旧・復興にむけ全国連帯でとりくむ」アピールが採択された。

瀧本中央執行委員長は石川県教組機関紙の記事にふれ、『組合の原点は、困っている職場の人たちが課題に対して団結の力で解決することを目的として集まった仲間の組織』であり、全国連帯のもと教育復興支援にとりくんでいく」と語った。そして、「能登半島地震」教育復興支援、憲法・子どもの権利条約を生かした教育改革、教研活動の次世代への継承と進化、教職員定数改善などの教育予算拡充、実効性ある学校の働き方改革、組織拡大・強化にむけて運動を展開していくことを確認した。

今大会では、24～25年度の日教組役員選挙がおこなわれ、瀧本中央執行委員長・西嶋中央執行委員が退任し、梶原新中央執行委員長・山木書記長をはじめとする新執行部体制が誕生した。梶原中央執行委員長は「新執行部が一致団結して、全国連帯のもととりくみを一層すすめていく」と抱負を語った。

24年度 兵教組執行部体制

森戸 卓也
中央執行委員長
（豊岡市教組）

谷 哲一
中央執行副委員長
教文部長
（佐用町教組）

松浦 明日香
書記長
（兵教組多紀教組）

福山 香織
書記次長
財政・広報部長
（伊丹市教組）

深江 理紗
中央執行委員
生活・情報管理・青年部長
（姫路市教組）

山内 圭一
中央執行委員
組織部長
（宝塚市教組）

北井 宏昌
中央執行委員
法政部長
（芦屋市教組）

谷垣 茂彦
中央執行委員
教財部長
（豊岡市教組）

増本 由紀
中央執行委員
賃対・女性部長
（明石市教組）

木南 拓也
中央執行委員
総務部長
（兵教組職員）

兵庫教育文化研究所

武田 啓道
教育研究専門委員
事務局長
（津名教組）

秋岡 広之
教育研究専門委員
事務局次長
（川西川辺教組）

藤井 司郎
教育研究専門委員
副所長
（宍粟市教組）

西嶋 保子
教育研究専門委員
副所長
（三田市教組）

子どもたちのために ともにがんばろう！

兵庫県教職員組合（略称：兵教組）は1947年7月10日に結成され、今年で77年を迎えます。小・中学校、中等教育学校・義務教育学校・養護・特別支援学校および一部の幼稚園・こども園も含め兵庫県内7地区・29地域組合・約1,100分会（学校）の教員・養護教員・学校事務職員・栄養教員・学校栄養職員・臨時的任用教職員等のほとんどの方が兵教組に加入している組合です。

私たち兵教組は、「子どもたちや学校教育に携わる仕事」に就かれた皆さんを心から歓迎します。

兵庫の義務教育諸学校に働く私たちは、県内で働く同じ仲間として手をつなぎ、子どもたちが夢や希望を持てる学校づくり、教職員が退職までいきいきと働き続けることができるこころの通いあう協力・協働の職場づくりをめざしています。

また、1947年の結成以来教職員の生活と労働条件の改善とともに、子どもたちの教育の充実を運動の中心課題に位置付けて、保護者や地域とともに歩むという願いをもって活動してきました。

今後も、兵庫の教職員にとってなくてはならない大切な組織であり続けるため、皆さんの参画が必要です。

ともにがんばりましょう！

人権教育ひょうご春季学習会

3月10日、ラッセホールで人権教育ひょうご春季学習会が開催され、兵教組から39人、賛同団体、事務局団体から合わせて71人が参加した。

森戸卓也人権教育ひょうご代表委員・兵教組中央執行委員長のあいさつの後、増原裕子さん（明石市職員）による「『性の多様性が尊重される社会の実現に向けて、組織・個人でできること』～LGBTQ＋／SOGIE（ソジー）の今～」と題した講演がおこなわれた。

記念講演（要旨）

増原裕子さん

増原さんは、「当事者が声を上げることが難しいという課題を解決していくということが大事である。現状、LGBTQ＋の人たちがカミングアウトできないことが多い環境にある。性の多様性のシンボル・運動の連帯の象徴といった6色の虹を活用するなど、可視化することが大事である。そして『一緒に解決していこう』という寄り添う姿勢が大切である」と語った。

参加者感想

・市としてのとりくみやご本人の体験談などを聞かせていただきとても勉強になった。当事者だけでなく社会の問題として今後もとりくんでいきたいと改めて感じた。カミングアウトなどもない多様な性が当たり前の世の中になるようにとりくんでいきたい

・今勤めている自治体でも積極的に性の多様性について学習する機会を与えていただいたが、今回の学習会で新たな気づきや再確認をすることができた。誰もが大切にされ、自分らしく生きていくために寄り添いながら自分にできることを実行していきたい

・「LGBTQ＋」、「SOGIE」について具体的に聞き、性の多様性の尊重の重要性に気づいた。十人十色いろいろな人を尊重し合えるために、仕組みや他人を思い合える人が増えたらいいなと思った。そのような人を増やすためにまず知識をつけることが必要だと思った

・SOGIEという言葉を初めて知った。ジェンダーに関する考えは、自分自身が子どものころから言われてきたことと異なることがあり、時代の考え方を反映するものであると感じている。人権の視点に立ち、それぞれが自分らしく生きられる社会にむけて、子どもたちにどう関わるのか、子どもたちとともに考えていきたい

・LGBTQ＋については、元々SNS等で発信されている方を見ていたので、すごく関心のあるお話だった。話を聞き、大事にしたいと思ったことはLGBTQ＋に限らず、どんなことも受け入れられる自分でいたいということ。理解はできなくても、理解しようとすることはでき、教員として、自分を大切にできる子どもたちを育んでいきたい

深江青年部長が公務員連絡会「2024春闘期3.12中央集会」で決意表明！

3月12日、東京・全電通会館ホールで公務員連絡会「2024春闘期3．12中央集会」が開催され、深江理紗日教組青年部長が決意表明をおこなった。

海外の学校を訪問し、「子どもたちを見ながら」、「仕事をしながら」ではない休憩時間の過ごし方に衝撃を受けたことなどについて話した。また、改めて「定額働かせ放題」の給特法の廃止・抜本的見直しにむけ引き続きとりくむことや、公務公共サービスに支障をきたしている公務全般の長時間労働の是正、人不足の解消など連帯してとりくむことを訴えた。

深江理紗青年部長

22年12月、オーストラリア教育組合にお誘いいただき、小学校・高等学校の見学、また青年組合員が集まる会議に参加した。オーストラリアの学校は、日本の大学のように子どもたちが授業ごとに教室を移動すること等、日本の学校との違いは様々あったが、一番驚いたことは、教職員が子どもたちから離れて休憩をしていることだった。いわゆる、日本の小学校の2時間目と3時間目の間にある、ちょっと長い休み時間のことである。日ごとに、子どもたちが外で遊ぶのを見守る教職員が決められており、それ以外の教職員は職員室という名の教職員の休憩室で、フルーツやお菓子を食べたり、コーヒーを飲んだりして談笑していた。しかも、そこにはパソコン等もなく、仕事をしながらの休憩ではない。これが休憩時間の本来あるべき姿とわかっていながらも、今の日本の学校現場では想像もできない。

青年組合員が集まる会議には、日本以外に、ニュージーランドやサモアからの参加もあり、様々なワークショップや休憩時間を通して学び合い、交流をおこなった。その中で、それぞれの組合での活動や青年教職員が直面している課題、青年組合員の組合活動への参画をどう促すか等についてプレゼンする時間があった。日本のプレゼンの後、オーストラリアの参加者から、「オーストラリアの教職員も忙しい。日本の教職員の忙しさはどのようなものか、1日の流れを教えてほしい」と質問があり、出勤から退勤までの流れをおよその時間も含めて説明した。すると、会場からため息とともに「oh…」という声がもれた。

私は、海外でのこれらの経験から、今の日本の教職員の働き方が当たり前ではないこと、また、当たり前だと思っている仲間が自分自身も含め大勢いることを改めて実感した。今でこそ、学校の働き方改革が叫ばれ、マスコミ等でも取り上げられるようになり、教育委員会、学校、個々人によるとりくみがおこなわれている。しかし、いわゆる「普通」、「理想」の働き方とは、まだまだかけ離れているのが現状である。

国において、中教審「質の高い教師の確保特別部会」がこれまでに9回開催（3月12日現在）され、さらなる学校における働き方改革や教員の処遇改善のあり方、学校の指導・運営体制の充実のあり方等について議論されてきた。この間、日教組は、「残業・休日勤務ありき」、「自主的・自発的勤務『依存』」による「定額働かせ放題」の給特法の廃止・抜本的見直しのもと、業務の削減、教職員の増員をもとめてとりくんでいる。昨年7月には緊急提言「持続可能な学校のための7つの提言」を公表し、教職員のいのちと健康を守り、子どもたちのゆたかな学びを保障するため、各種学習会、社会的対話集会、全国各地での街宣行動などにとりくんできた。また、『学校の大ピンチ』を救う方策の実現を求める署名」にもとりくみ、全国から6098，091筆を集約することができた。各構成組織からも多大なるご支援をいただき、感謝する。今後、署名を文科大臣・中教審会長に提出し、「学校の大ピンチを救う」方策をもとめていく。今後想定される、中教審特別部会からの答申、また給特法に関わる法案提出にむけ、引き続き全国連帯でとりくんでいくので、今後もご支援をお願いする。

教職員共済の マイページ ができました！
あんしん むすぶ 教職員共済

マイページでできること
◆ご加入状況の確認
◆お名前・住所・電話番号の変更手続き
◆自動車共済の契約変更（車両入替含む）

登録方法
パソコンから登録
教職員共済公式ホームページの「ご加入者用ページ」からアクセスする
教職員共済　マイページ　検索
https://www.kyousyokuin.or.jp/kumiai.html
スマートフォンから登録
こちらからアクセス

事前にご確認ください！
☑組合員番号はお分かりですか
本人確証のため、組合員番号の入力が必要となります。
組合員証、各共済の共済証書、加入状況のお知らせなど、組合員番号が分かるものをお手元にご用意ください。
☑教職員共済に電話番号の登録はされていますか
本人確証のため、教職員共済にご登録の電話番号宛に認証コードを通知します。
教職員共済に電話番号の登録をされていない場合は事前にお手続きが必要です。

LINE公式アカウントもできました！
お友だち登録はこちらから

イメージキャラクター「あむりん」

厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合　〒162-8624 東京都新宿区山吹町 10-1　ラポール日教済

あんしん むすぶ 教職員共済
教職員共済組合員のための
マイページ ができました！
教職員共済　マイページ　検索
https://www.kyousyokuin.or.jp/kumiai.html
LINE公式アカウントもできました！
お友だち登録はこちらから
厚生労働省認可
教職員共済生活協同組合
〒162-8624 東京都新宿区山吹町 10-1　ラポール日教済
イメージキャラクター「あむりん」